



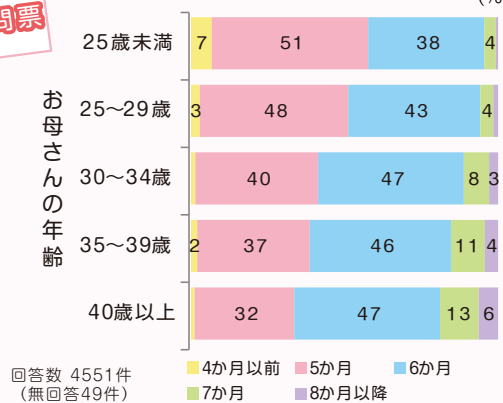
ちばユニットセンターの質問票集計結果から

お子さんの食事とアレルギーについて

離乳の開始は、5～6か月頃からお子さんの成長に合わせて、とわれていますが、年齢の高いお母さんほど離乳食を始める時期が遅いことが多いようです。

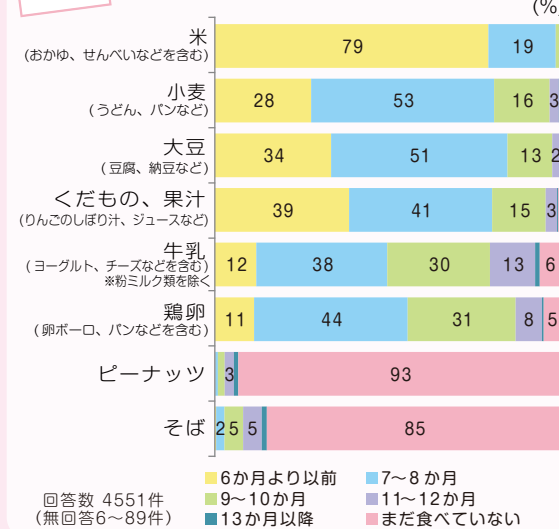
1歳
質問票

離乳食の開始時期は？ (%)



1歳
質問票

食べ始めた時期は？ (離乳食を始めている子ども) (%)

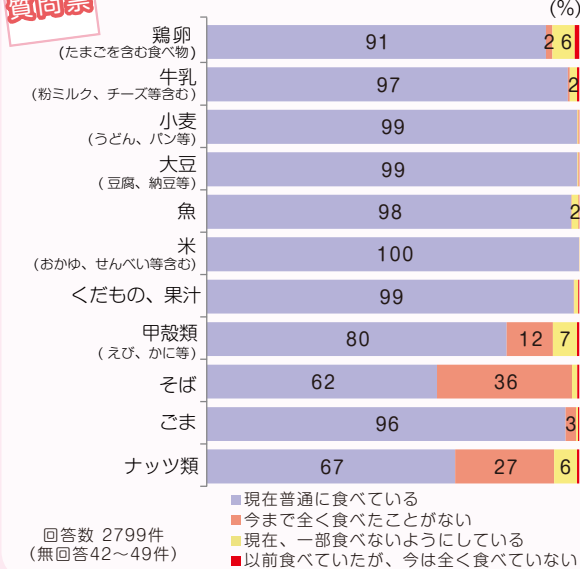


食品を食べ始めた時期や食べないようにしている食べ物は、全国（エコチル調査だよりvol.8に掲載）とほとんど同じ傾向でしたが、食物アレルギーと診断されたことがあるお子さんは、2歳まででは、千葉の方が全国よりもやや多くなっていました。

このような違いがこれからも続くのか、また何の関係しているのかを知るためには、さらに調査を行う必要があります。

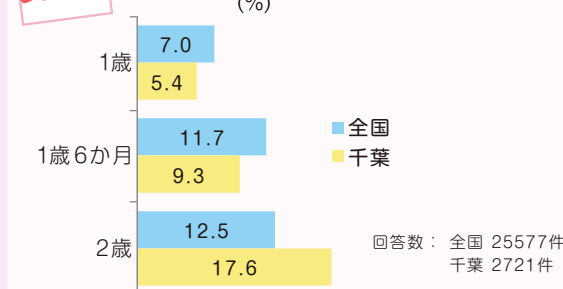
2歳
質問票

食べないようにしている食べ物 (%)



1～2歳
質問票

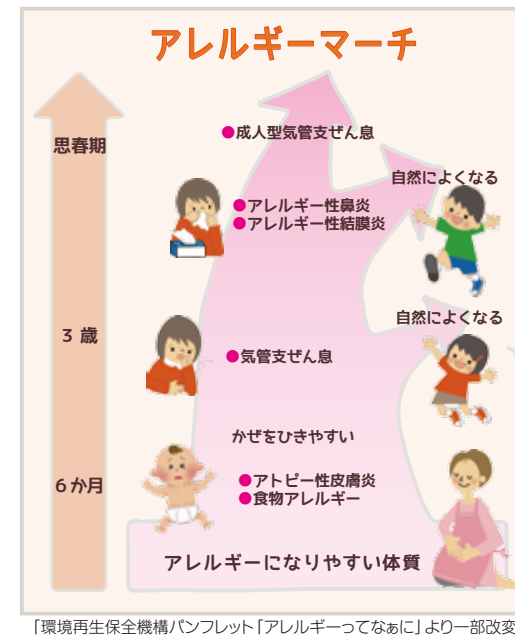
食物アレルギーと診断されたこと (%)



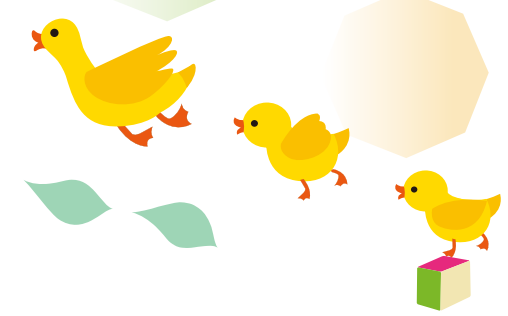
エコチル調査のいちばん大きな目的は、子どもたちの成長・発達への化学物質の影響を調べるのですが、その影響を正しく知るために、子どもたちの成長・発達や病気に関わる可能性があるさまざまな情報を集めさせていただいています。

その中から今回は、お子さんの食事とアレルギーについての集計結果を一部お知らせします。
(今回のデータの一部は、8月1日に木更津市で行った「ちばエコチルファミリーフェスタ」でもご紹介しています)

※この結果は2014年11月30日（全国）、2015年7月6日（千葉）時点の回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。
全国のデータは環境省主催のエコチル調査シンポジウムで公表されたものです。



子どものアレルギーは、成長するにつれて、いろいろなアレルギー症状が出たり、消えたりします。これは行進（マーチ）にたとえて「アレルギーマーチ」と呼ばれています。

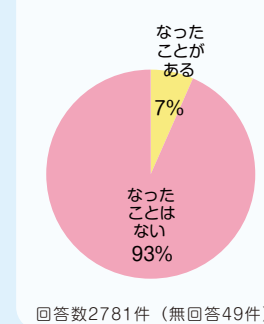


呼吸・皮膚・鼻のアレルギー症状

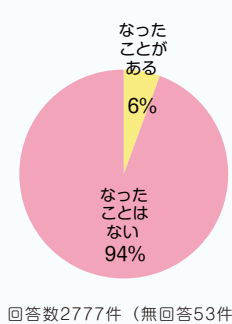
2歳
質問票

花粉症があるお子さんはまだ少ないですが、ぜんそくやアトピー性皮膚炎は、15人に1人くらいのお子さんが症状が出たことがあるようです。

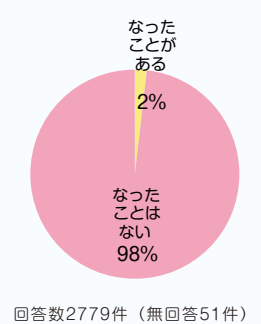
ぜんそく



アトピー性皮膚炎



花粉症



アレルギーは、親から受け継いだ体質や身のまわりの環境、生活習慣、食生活などさまざまな原因が複雑にかかわっているといわれます。

エコチル調査は、それらがどのようにアレルギーにかかわっているのかを幅広く調べることができる、とても重要な調査です。

みなさんからいただく質問票は、アレルギーの予防や治療にもつながっています。

